

平成 26 年度の学校評価目標

(ア) 建学の精神

不言実行 あてになる人間

(イ) 「入れる学校」から「入りたい学校」へ

- a 特進コース、一貫コース、女子生徒の入学増を図る。
- b 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進を図る。
- c 授業に取り組む生徒・教員の姿勢の向上を図る。
- d 生徒の家庭学習の定着を図る。
- e 教員の細かな指導により、生徒が自信を持てるようにする。結果として、学力不振者の減少を図る。
- f 年間退学率を 2.5%未満にとどめるよう、生徒一人一人の指導に配慮する。
- g いじめを許さない学校風土の醸成を図る。
- h 授業評価や公開授業のアンケートに基づく教員の意識改革とレベルアップを図る。

分掌	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外 部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 募集定員を確保する努力 (2) 普通科コースの特色の発信 (3) 中部大学との「高大一貫教育」の発信 (4) 建学の精神「不言実行、あてになる人間」の具現化 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育力の高さをアピールする。 (2) 本学園の教育制度を活用し、高大一貫教育の推進と女子生徒数を増やす方策を検討する。 (3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努め、定員を確保する。 (4) 学習・部活動や学校行事等、元気で魅力ある学校を PR する。 (5) 新制服の PR に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 中部大学をはじめとする大学進学実績を上げる。 (2) 学校見学会の内容をさらに充実させるために検討する。学校生活や進路内容が十分理解できるようにする。 (3) 地域への貢献は継続的かつ積極的に実施する。ユネスコスクールとして各種活動をとおして、近隣市民や町民から信頼される学校作りに努め、広報活動に力を入れる。
総務 部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 災害発生時の対応の強化 (2) 総務部の業務のスリム化 (3) 総務部の役割の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大規模災害発生時のマニュアルの整備をする。 (2) 現在行っている業務を精選しスリム化を図る。 (3) 仕事の固定化を避け、ローテーション化する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 災害伝言ダイヤルの活用訓練や放課中の避難訓練の実施について検討する。 (2) 仕事のスリム化について本年度から実施できるよう検討する。 (3) 前年度より実施してきたことを継続する。新たな視点で各行事が企画できるようにする。
教務 部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎学力の向上 (2) 新たな授業方法の実践 (3) 授業時間の確保 (4) 教務システム更新の検討 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 上級学校への進学や就職に向けて、関係分掌や委員会と連携をとりながら進める。 (2) 電子黒板の利用について、各教科で効果的な活用法を検討する。 (3) 様々なデータの保管・管理を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公開授業週間の際には保護者や中部大学関係者の参加を促す。 (2) 主に学校行事の見直しや合理化によって授業時数を増やすよう検討する。 (4) 曜日や時間帯で各授業の時間数の偏りができるだけ少なくなるよう工夫する。 (5) 教務が取り扱う項目のみならず、入試、進路、部活動、保健に関わる項目など他の分掌と連携できるシステムを考案する。
生徒指導部	<p>生徒の健全な成長を促し、良好な学習環境の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導の徹底と規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 問題行動の抑止と発生時の初期対応に留意する。 (2) 職員による校外指導並びに啓発活動により、交通安全教育、交通マナー向上に努める。 (3) いじめによる問題行動の撲滅のため迅速な指導姿勢を持って臨む。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に関する問題点の「可視化」を進め、関係者による初期対応の迅速化を図る。 (2) P T A による街頭指導をサポートする。道路交通法の改正に伴い、各種講習会を実施し、交通安全指導の充実を図る。 (3) いじめ防止対策推進法に伴い、校内環境の整備を図る。 (4) いじめ、迷惑行為、授業妨害など早期発見と適切な対応をする。
特活 部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高める。 (2) 部活動を物心両面で支援する。 (3) 教育相談を充実させ学年・分掌との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 文化祭のクラス参加を年度当初から推奨し実行委員を活用する。 (2) 水泳等活動のない部の個人に対する支援を継続する。 (3) 予算消化実績、顧問人数に応じた推進費配分（小規模予算に限る） (4) カウンセラー、学年会、生徒指導部との連絡を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 事前マニュアルとアンケートを活用し、参加意識、満足度を高める。 (2) 本校にない種目で高体連等の大会に参加する生徒を支援する。 (3) 心配な生徒にははできるだけ早く対応できるようにする。

分掌	重点目標	具体的方策	留意事項
研 修 部	(1) 研修会の充実 (2) 現職教育の模索 (3) 各種意識調査を実施 (4) ESD（持続可能な開発のための教育）活動	(1) 初任者研修会（5回）、初任者研究授業（2回）を実施。 (2) 講演会を実施する。 (3) 学校生活意識調査・学校評価（保護者対象）の実施と分析。 (4) ESD 活動へより積極的に参加できる協力体制を構築する。	(1) 渉外部実施の私立学校展へ参加する。 (2) 10年研修等実施の可能性を検討する。 (3) 時宜を得た講演会を実施する。必要であれば複数回行う。現職研修では「いじめ」をはじめ生徒指導上の諸問題に関する内容も取り上げる。 (4) 学校評価を3年生保護者対象に調査する。集計データの提供の仕方を工夫する。
進路指導部	自分の興味や適性を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定し進路を確保する。	(1) 進路未定者を出さない。 (2) 中部大学への進学を確保する。 (3) 中部大学100名、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名を実現させる。	(1) 3年生の第3回校内実力テストは、9月実施とする。 (2) 夏季進学補習の後期は、3年生を対象に実施する。
普 通 科	(1) 3カ年の学習計画に基づき学習先頭集団を育てる。 (2) 中部大学への進学希望者を増やし、合格に導きながら、学習意欲の向上と学力の向上に繋げる。	(1) 学校全体の学力実態を把握し、基礎学力向上へつなげる。 (2) 各コースの特徴を生かせるようなプログラムを検討し、実施していく。 (3) 家庭学習の充実と学力の定着を図る。	(1) 1年生（特進・新一貫は除く）にはマナトレや英単語小テストの実施と英検を義務化のため、英語の基礎学力向上に取り組む。 (2) 学習意欲の高い生徒（特に英語、数学）を育て、国公立及び上位私立を目指す。 (3) 学力が身に付く勉強方法を提示し学習の定着化を図る。
機 械 電 気 シ ス テ ム 科	(1) ジュニアマイスター顕彰取得者を増加させる方法の確立 (2) 3級技能士「電気機器組立－シーケンス制御作業」受験への準備	(1) 資格・検定対策の充実を図る。受験のための対策として適正な授業時間を確保する。 (2) 3級技能士「電気機器組立－シーケンス制御作業」受験を目指す。	(1) 対策テキスト、過去問題などを利用して合格率が上がるようにする。 (2) 今後は検定種目の取捨選択を行いその合格率を上げる。 (3) 3級技能士「電気機器組立－シーケンス制御作業」受験を目指して実習装置の整備とテキストの準備をする。
1 年 生	(1) 生活面は、高校生としての基本的な生活習慣を身につけさせる。 (2) 学習面は、資格取得や進路目標など長期的・短期的目標を持たせる。 (3) 各科・コースの特徴を生かした取組を行う。	(1) 4月のオリエンテーション合宿やHRを有効的に活用する。 (2) 資格取得（英検やS科の各種検定）・補習・自習室での学習等さまざまな機会を捉えて継続的に指導する。また、家庭学習の大切さを理解することにより、学習習慣を身に付けさせる。 (3) G科、転コースや文理選択に向けて、HRや総合的な学習の時間を通して、多くの情報を生徒に発信する。 S科、将来の職業と向き合いながら、ジュニアマイスター取得の基盤を作る。	(1) 1年学年会の団結と関係分掌との連携を密にする。 (2) 話を聞く姿勢の定着、課題の提出を厳守する意識を持たせる。 (3) 生徒の個性を把握し、個々の状況に合わせ適切な指導を行う。
2 年 生	(1) 学校生活で中心的役割を果たすために生徒の意識と行動力を高める。 (2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。 (3) 各コース、系に沿ったきめ細かい指導を行い、積極的な資格取得を目指す。	(1) 中弛みしないよう、生活全般に渡って、繰り返し指導を心掛ける。 (2) 学校生活に関する保護者への連絡について要点を確実に伝える。 (3) 進路指導を充実させ、具体的な目標を設定させる。 (4) 学習習慣を身につけさせるよう継続的に指導する。	(1) 外国籍の保護者に重要事項を伝える際は、通訳を介して伝える方策を考える。 (2) 学年団・教科担任及び関係分掌との連携を図る。 (3) 家庭学習も含めて学習習慣の確立を図るとともに現実的な進路指導をする。 (4) 基礎学習の定着を図るために粘り強く指導する。 (5) 英検・漢検、ジュニアマイスターなど資格の取得や、補習並びに部活動への参加など、目的意識を明確に持たせる。
3 年 生	(1) 進路にあった学習指導を行うとともに学習環境の充実を図る。 (2) 各科各コースの特長を活かした指導で全員の希望進路の実現を目指す。	(1) 目標のある落ち着いた生活を送るため、進路目標の決定と学習習慣を確立させる。 (2) 各科各コースの特長と独自性のある取り組みを展開し、目的に応じた進路選択で、早めの進路決定ができるよう指導する。	(1) HRや学年集会など機会を捉え進路について具体的で現実的な指導を行う。 (2) 資格取得・補習への参加・自習室利用など学習機会へ積極的な参加を促す。 (3) 中部大学をはじめ進学に関する情報を提供する。